



# デジタル・アーキテクチャと法 ——総論

デジタル・アーキテクチャと法に関するシンポジウム  
——デジタル・アーキテクチャの社会実装・運用に係る諸問題——

2023年1月18日

加毛明

東京大学大学院法学政治学研究科・教授

# I. 研究の対象——デジタル・アーキテクチャ

## II. 研究の課題

1. 価値に関する問題

2. プロセスに関する問題

3. 契約取引に関する問題

①情報・データの利用・管理に関する法的ルール

②契約の成立・契約の履行に関する法的課題

③事故・紛争をめぐる問題

4. 規制・監督に関する問題

## III. 研究の方針——法と技術の相互作用

# I. 研究の対象——デジタル・アーキテクチャ

## ■アーキテクチャ (architecture)

- 物理的な技術・構造の設計により、人の行動を一定の方向に誘導する手法

## ■デジタル・アーキテクチャ

## ■共同研究における主たる検討対象

- 契約取引に利用されるデジタル・アーキテクチャ
- 規制・監督に利用されるデジタル・アーキテクチャ

## Ⅱ. 研究の課題

### 1. 価値に関する問題

#### ■ デジタル・アーキテクチャによって実現を目指すべき価値

e.g. 当事者間の取引コスト削減による効率性の改善、当事者の意思決定に関するアカウントビリティの向上、商品・サービスのトレーサビリティの促進、取引可能な新たな財の創出など

#### ■ デジタル・アーキテクチャの構築において考慮されるべき価値

e.g. 利用者間の利害の調整、利用者の公平性、正統性の確保など

## Ⅱ. 研究の課題

### 2. プロセスに関する問題

- デジタル・アーキテクチャの設計・運用・監督・改定
- プロセスに関与する主体
  - 私的セクターと公的セクターの協働
  - 私的セクターの関与と競争法上の問題
  - 公的セクターの役割(政府の在り方)
- 国際的な協調ないし競争

## Ⅱ. 研究の課題

### 3. 契約取引に関する問題

#### ①情報・データの利用・管理に関する法的ルール

- 情報・データの利活用による社会問題の解決・社会全体の効用の増進
- 情報・データの利用・管理に関する法的ルール
  - 情報・データの帰属、利用目的の制限の可否・限界
- デジタル・アーキテクチャが情報・データの財としての在り方に与える影響

## Ⅱ. 研究の課題

### 3. 契約取引に関する問題

#### ② 契約の成立・契約の履行に関する法的課題

##### ■ スマート・コントラクト

- プログラム・コードに関する当事者の合意と契約の成立

##### ■ 決済を含めた契約の履行のデジタル完結

- デジタル・アーキテクチャに適した決済手段(暗号資産、電子決済手段など)
- 民法上の法的位置づけ
- AML/CFTの要請

## Ⅱ. 研究の課題

### 3. 契約取引に関する問題

#### ③ 事故・紛争をめぐる問題

##### ■ 責任の所在

##### ■ 解決の方法

- 既存の紛争解決手続の見直し
  - ・ デジタル・アーキテクチャの特性に応じた運用改善・制度改革
- 新たな紛争解決の在り方の模索
  - ・ 民事責任・刑事責任の制限・免除の可否・条件

## Ⅱ. 研究の課題

### 4. 規制・監督に関する問題

- 事業者の規制対応コストの削減、実効的な監督の実現、競争領域への過剰な干渉の防止
- デジタル・アーキテクチャの構築に対する利害関係者の関与の在り方
- 機械可読性のある法・規制

### Ⅲ. 研究の方針——法と技術の相互作用

#### ■法と技術(デジタル・アーキテクチャ)の相互作用

#### ■法の技術に対する働きかけ

- デジタル・アーキテクチャの適切な構築のための法・法学の観点からの検討の必要性

#### ■技術の法に対する働きかけ

- デジタル・アーキテクチャによる法概念・法制度の更新、法の在り方の見直し